

恵那市における中学校英語の結果分析

恵那市教育研究所

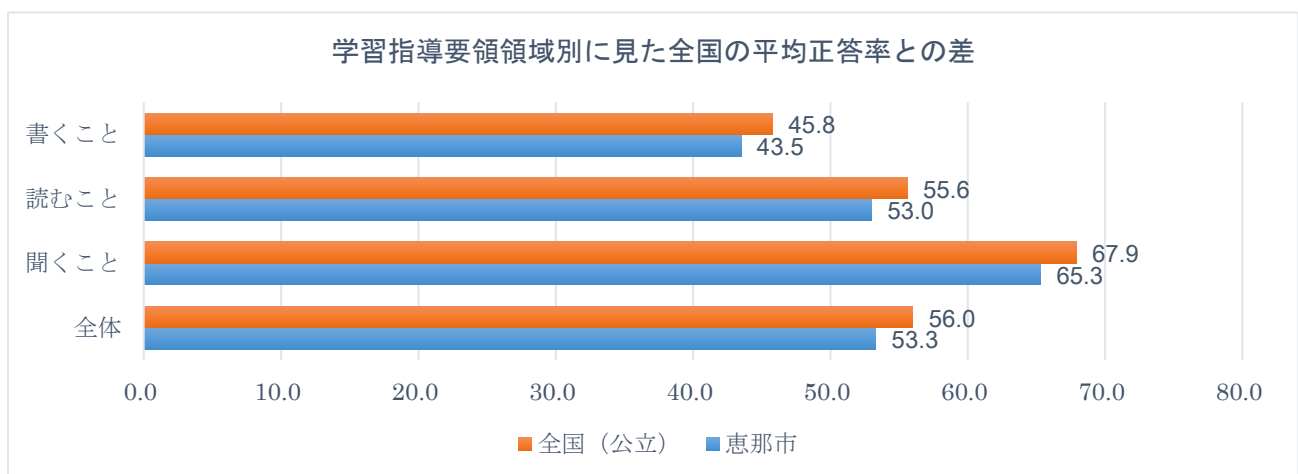
■ 平均正答率

- 恵那市 53.3%
- 県 57%
- 全国 56.0%【恵那市から見た国との差 -2.7】

■ 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			県差	国差
			恵那市	岐阜県(公立)	全国(公立)		
全体		21	53.3	57	56.0		▲2.7
学習指導要領の領域	聞くこと	7	65.3	67.7	67.9	▲2.4	▲2.6
	話すこと(参考値)						
	読むこと	6	53.0	56.9	55.6	▲3.9	▲2.6
	書くこと	8	43.5	48.3	45.8	▲4.8	▲2.3
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0					
	外国語表現の能力	1	2.8	2.4	1.8	0.4	1.0
	外国語理解の能力	6	41.5	45.5	44.7	▲4.0	▲3.2
	言語や文化についての知識・理解	14	62.2	66.2	64.7	▲4.0	▲2.5
問題形式	選択式	13	69.7	72.5	71.4	▲2.8	▲1.7
	短答式	5	40.7	47.8	45.2	▲7.1	▲4.5
	記述式	3	4.3	7.1	6.8	▲2.8	▲2.5

■ 調査結果の概要



恵那市の平均正答率は、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の全ての領域において全国平均や県平均を2ポイント以上下回っています。

設問ごとに見ると、「情報を正確に聞き取ること」については正答率が高く、成果が認められます。逆に、「与えられた情報に基づいて英文を書く」という設問では、3問中2問において全国平均や県平均と10ポイント以上差がついており、語や文法事項等を正しく用いて文を書くことに課題があります。

■ 指導改善のポイント

課題の見られた問題の概要

9 語や文法事項等を理解して正しく文を書く

9(3)② 恵那市の
平均正答率 **20.3%**

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く（住んでいる都市）

9(3)③ 恵那市の
平均正答率 **26.6%**

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く（ペットの有無）

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19mondai_chuu_eigo.pdf

問題番号		解答類型		正答	自校	恵那市	全国
9	(3) ②	1	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書いているもの (正答例) ・ She lives in Rome.	◎		<u>18.8</u>	<u>29.7</u>
		2	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ she lives in Rome	○		<u>1.5</u>	<u>3.2</u>
		3	与えられた情報に基づいて解答しているが、動詞の活用形に誤りがあるもの			18.0	15.8
		4	与えられた情報に基づいて解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの			34.3	23.0
		5	類型4までとは異なる誤りがあるもの			17.3	18.6
		99	上記以外の解答			0.5	0.5
		0	無回答			9.6	9.3

■ 解答の傾向について

正答である【解答類型1】及び【解答類型2】に該当するには、3人称単数現在時制であることを踏まえ、肯定文を書くことが必要です。この設問において、恵那市の平均正答率は約2割にとどまるとともに、全国の平均正答率を12.6ポイント下回っています。恵那市の特徴的な課題と捉えることができます。

誤答の傾向としては3分の1以上の生徒が【解答類型4】に当てはまる解答をしていたことが挙げられます。主語（She）を正しく選択しているものの、語順や語法に誤りがあり、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことに課題があると考えられます。誤答例として以下のものがありました。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| (例) ・ She in Rome lives. | (語順に誤りがある) |
| ・ She lives Rome. | (前置詞が欠落している) |
| ・ She is live in Rome. | (be 動詞と一般動詞が混在している) |

現行学習指導要領の改訂の趣旨として「（コミュニケーション能力の）基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る」ということが記載されています。文法指導と言語活動が二項対立するものではなく、「文法指導は円滑なコミュニケーションを行うために必要」と捉え、授業改善を図る必要があります。

■ 学習指導に当たって

自分の紹介したい人物や事柄などを正しく相手に伝えるために、文法的に正確な文を書くことができるようにする指導が考えられます。

① 憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を書く

出身	スコットランド
住んでいる都市	恵那
ペット（pet）の有（○）無（×）	×



② 生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気づき、修正を加える

She from Scotland. She live Ena. She doesn't have a pet.

「～出身です」の文に動詞がないね。「is」が要るかな？

主語が「She」のときは動詞の最後に「s」を付けるんだよね。

言語の正確さを高めていくためには長期的な指導が必要です。授業者が生徒の文法的な誤りを把握するとともに、生徒自身に誤りを見付けさせたり考えさせたりするなどの学習活動を、計画的・継続的に行っていくことが大切です。